

どうしてここに陸橋が？

札幌の中心部から国道十二号線を車で走ると、豊平川を渡って一キロも行かないうちに陸橋を通過する。この橋、何のためにここに架かっているのだろう。

陸橋は元々、道路や線路との立体交差のために作られるものだ。札幌市内で最初に作られた西五丁目の陸橋は、鉄道線路で分断されていた街の南北をつなぐ最重要な橋だったが、鉄道線路のほうを高架にすることで、創成川上にあった石狩街道の陸橋と一緒に撤去された。

消えた陸橋もあれば、新たに作られる橋やトンネルもある。車の増加や流れの変化によって、立体交差にも盛衰がある。

ところで、この白石の陸橋は何だろう。橋上から眺めたところ、別に線路があるわけでもなく、車が混雑している道と交差しているわけでもない。五・六年前までは右手にがらんとした空地が見えていたほど、いわば取り残されたような場所に陸橋があるという印象だった。だから撤去してしまえば、という話もあった。ただ撤去費用と工事中の国道の渋滞を考えると、おいそれとはいかない事情にあるという。

実はかつて、千歳線がこの下を走っていた。千歳線は北海道の鉄道の大動脈。だからここに陸橋は必要だったのだ。近くには東札幌という名の駅もあった。ローカル線の千歳線は札幌駅を出て豊平川を渡ると函館本線を離れて右にまがり、十二号線をこえ、南郷通りを過ぎてから左に折れて東に向かっていた。東札幌・月寒・大谷地・上野幌(今の駅の一キロほど西)の四駅があって、現千歳線につながっていた。跡地が今のサイクリングロードである。

戦前まで函館・本州への急行は小樽廻りだった。それが昭和三十六年に千歳線経由の初特急が走って以来、主役の座はこちらに移った。そして複線化の進行にあわせ、昭和四十八年、今のルートになり新札幌駅が誕生した。線路は消えたが、かつて千歳線がマイナーからメジャーに変わっていく様子を、この陸橋は一時期眺めていたわけだ。だからこの陸橋は北海道の産業遺産ともいえるかもしれない。

東札幌駅構内は今、国際的なコンベンションセンターになった。